

令和元年度 第2回大会・研修委員会 会議録(概要)

日時：令和元年7月16日(火)14時～17時半

会場：安曇野市豊科公民館会議室

出席者：工藤委員長・長谷川副委員長・青木委員・新井委員・豊見山委員・蓮沼委員・松岡委員
オブザーバー：加藤諭氏（東北大学史料館）・高木会長・平尾会長事務局
事務局(煙山)

1. 委員長挨拶

2. 会場視察

16日 会議前に豊科公民館視察済、会議後に交流会場（いさみや会館）を視察

17日 豊科郷土博物館→安曇野市文書館→貞享義民記念館→松本市文書館の順で視察。

3. 全国（安曇野）大会について

- ・共催・後援団体、日程、来賓、広報、担当、運営全般について確認。

- ・総会が別日程での開催となり、開会行事を大会の最初に持ってきたこと、公開講演会があることなどから、前例とは切り離して組み立て直す必要がある。

- ・研修（視察）について、「安曇野文書館直行コース」「松本～安曇野コース」「安曇野市博物館等周遊コース」とする。

- ・研修 A(視察)の定員について、松本～安曇野コース23人、安曇野市博物館等周遊コースが35人、安曇野市文書館直行コースが55人としているが、これは手配するバスのサイズによるものである。

4. 大会テーマ&大会趣旨案

- ・大会テーマを『『文書館(ぶんしょかん)』をつくる～市町村が拓くアーカイブズ活動～』とする。

- ・テーマ研究会ではミニマムモデルの活用、長野県内自治体へのアンケート結果の還元、市民の要請による文書館設立にかけた熱意が伝わる話を予定。また長野県内の新しい文書館からも参加者があると思うので、討論の最初の部分で発言をいただきたい。

5. 今後のスケジュールについて

7月 講師への依頼文書（講師・大会案内原稿）送付

8月 大会案内作成・送付、受付サイト準備

9月 受付事務開始、企業展示、広告募集、大会冊子・大会必携編集

10月 受付事務まとめ、大会冊子印刷、会場掲示物作成、大会物品調達・準備

6. 令和2年度の大会について

- ・宮城県仙台市の東北大学川内萩ホールの開催を企画している。

- ・東日本大震災から来年で9年となり、東北大学や宮城資料ネットが資料保存活動に取り

組んできたこともふまえ、東北の復興の声を全国に届けたい。

- ・近年頻発する自然災害について資料保存・公文書管理の面で対応することの重要性が増している。

- ・阪神淡路や東日本の震災以降、資料救出技術の積み重ねがある。また全国の自治体や資料ネットが各地で盛んに活動しているが、資料ネット同士だけではなく自治体や各種機関などとの連携が大事だとの声があがってきている。

- ・東北地方では公文書館設立や、公文書管理条例制定の動きが見られる。

- ・東日本大震災以降の歴史資料保全活動の新段階を考える大会にしたい。幸いに東北大学史料館・東北大学災害科学国際研究所の協力が得られ、また施設見学としては宮城県公文書館を想定している。

- ・11月5日・6日を第一候補、その2週間後の11月19日・20日を第2候補とする。